

福祉サービス第三者評価 評価結果

大船ルーテル保育園 分園

〒244-0842 横浜市栄区飯島町 48 番 1

運営主体：社会福祉法人 イクソス会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4 ページ
分類別評価結果	5～13 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	14～20 ページ
利用者本人調査分析	21～22 ページ
事業者意見	23 ページ

2007 年 1 月 29 日公表

評価機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	社会福祉法人 イクスス会 大船ルーテル保育園 分園		
報告書作成日	2007年1月29日	評価に要した期間	約5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:06年9月1日～10月13日</p>	<p>全職員の研修会で説明し、常勤職員が自宅に持ち帰って、自由に記入した。</p> <p>個人が記入した評価結果を一つにまとめ、園長、分園長、事務長などで意見交換しながら一項目ずつ確認し、評価を決定していった。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:06年9月4日～10月10日</p>	<p>全利用者（園児）の保護者へ事業者から手渡し。</p> <p>各保護者より、同封の返送用封筒にて評価機関宛に匿名で返送。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 06年11月30日 第2日 06年12月6日</p>	<p>第1日午前中は、各クラスの保育観察や5歳児の聞き取り調査、書類調査。昼食はランチルームと保育室に分かれて園児と一緒にいただく。午後は引き続き書類調査、および各クラスリーダーに面接調査の後、分園長・事務長への面接調査を実施。</p> <p>第2日午前中は、各クラスの保育観察と5歳児の聞き取り調査、書類調査。昼食はランチルームと保育室に分かれて園児と一緒にいただく。午後は引き続き書類調査と、調理師に面接調査の後、分園長・事務長に面接調査と意見交換を実施。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 06年11月30日 第2日 06年12月6日</p>	<p>観察調査は、園内および戸外（グラウンド・公園・散歩に同行）にて実施。</p> <p>聞き取り調査は、5歳児以上を中心に、保育中および食事に実施。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

大船ルーテル保育園分園は、2004年（平成16年）12月、地元企業の社内育児室の建物を引き継ぐ形で保育園として開設しました。定員42名と小規模の保育園です。建物は2階建て、築10年と新しく、天井が高く、南に面した各部屋は明るく広々とした快適な空間を作っています。園所有の園庭はありませんが、今年から園に隣接した栄区所有の飯島グラウンドを利用できるようになりました。

当園は、大船ルーテル保育園（本園）の分園として組織され、本園と同様、キリスト教保育をベースに、モンテッソーリ教育を柱とした保育を実践しています。園長は本園の園長が兼務しています。開設後2年余り、分園長のもと、保育園一体となったチームワークが形成されつつあります。

高く評価できる点

1. 子どもたちは、一人ひとり大切にされ、温かく見守られて園生活を送っています

基本理念「キリストの愛による、乳幼児の健全育成と、就労支援」、保育の基本方針「整えられた環境において、子どもの情緒的発達を助ける」キリスト教保育とモンテッソーリ教育によって、園児に質の高い生活支援をする」に基づき、子どもたちは一人ひとり大切にされ、園生活を送っています。

日常の保育では異年齢児保育（縦割りクラス）の形をとり、3歳から5歳をひとつのクラス編成としています。

朝の礼拝の時間では、ほとんどの子どもたちはきちんと座り、保育士の話を聞いています。モンテッソーリの時間では、子どもたちは落ち着いて、一生懸命教具に取り組んでいます。保育士は、そばで静かに観察しながら言葉かけや手助けをしています。

公園では、ブランコ、シーソー、ジャングルジム、砂場などで、好きな遊びを友だちと一緒に楽しんでいます。年長の子は年少の子をいたわり、ともに遊ぶ姿が見られます。みんなで一緒に遊ぶ楽しさと共に、友だち関係やルールを守る社会性が育てられています。

保育士は、一人ひとりの子どもの気持ちや意思を大事にしています。自由遊びの中では一人ひとりが興味や関心を持って遊べるように援助しています。個々の子どもの持てるものを生かすことに努め、子どもたちを温かく見守っています。

2. 食育を通して、子どもたちは食べることの楽しさ、大切さを発見しています

子どもたちは、食事中、楽しくおしゃべりしながら、残さず食べきっています。

この状況になるまでには、栄養士と保育士の子どもたちへの熱い思いがありました。2004年12月の開設間もない頃は、慣れない園生活も手伝って、子どもたちは残食が多く、また野菜を食べない子が多いことが保育士と栄養士にとって驚きでした。これを園の最初の課題としてとらえ、真剣な意見交換の中から地道な食育に取り組むことになりました。そして、2005年2月から、月に1~2回の“食育の時間”を始めました。絵などを使っての三大栄養素の説明、食材は実物を持参して子どもたちに触れさせ、更に、子どもたちと一緒に取り組むクッキー作りやおにぎり作りを通して、食への関心を高めました。平行して、子どもたちの様子を写真にとってクラス内に掲示したことで、保護者の関心も高まりました。この“食育の時間”は現在も続いています。

そして、1年余り経ち、子どもたちは食べることの楽しさ、大切さを発見しています。野菜は大好きになり、残食も無くなりました。保育園生活を一段と楽しいものになっている様子です。

3. 保育士同士が一体となって園を創り上げています

保育士たちは、採用後、大学等における2年間のモンテッソーリ教員養成コースで、モンテッソーリ教育の理論と実践を学び、実際の日々の保育を通して、またクラス会議、ケーススタディ会議における振り返りを通して自らの保育レベルの向上を図っています。

当園は、職員 10 名の小型保育園であるため、一人で多くの分野を受けもちながら、お互いに助け合っています。このような中から信頼感に満ちた強い絆で結ばれたすばらしいチームワークが生まれています。

子どもたちのクラス編成は、0・1 歳児、1・2 歳児、3～5 歳児の 3 クラスで、それぞれに担任を置いています。すべての保育士が、すべての園児を把握し見守ることが出来ています。何か課題が発生すれば、保育士は声をかけあって全員で対応する体制になっています。個々の保育士はモチベーションが高く、“歴史が浅い保育園だけれど子どもたちをしっかりと育てていきたい、立派な保育園にしていきたい”と、情熱を傾けているのが伺えます。

分園長と中堅保育士のリーダーシップ、保育士同士のチームワークにより、質の高い保育園に発展していくことと期待できます。

注：モンテッソーリ教育について：

モンテッソーリ教育とは、1870 年、イタリアのマリア・モンテッソーリ（医学博士、哲学博士）が、障がいのある子どもの教育を試行として実践したところから生まれました。

この教育は従来の保育士主導の一斉保育とは異なり、主として個別指導のかたちをとります。部屋にはカリキュラムに従って各種の教具が用意されており、幼児がその教具を自由に選択し、触れ、集中して取り組むことを通して、幼児の持つ自発的で創造的な関心を段階的に引き出し、秩序ある自己育成を促していこうとするものです。

保育士はアドバイザーとして、適切な助言等のために常に幼児の近くに備え、また、幼児の関心が教具に向いていくよう、部屋の環境づくりに配慮しています。

改善や工夫が望まれる点

1. 園と保護者のより密接な連携を

利用者本人が乳幼児である保育園にとって、保護者といかに信頼関係を保つかは、大事な事柄です。

開設後 2 年と新しい園ではありますが、分園長のリーダーシップと職員のチームワークにより、職員と園児が一体となった保育園を形成しつつあり、職員の誠意ある取り組みにより保護者との信頼関係が徐々に構築されつつあります。

現在、園児の送迎時における保育士と保護者との情報交換のほか、毎月発行の園だより、年 2 回の保護者懇談会、年 1 回の保護者との個人面談や保育参観、そして本園で開催するバザー、七夕、お買い物ごっこ等の機会を通して保護者とのコミュニケーションを図っています。さらに本年は、隣接の飯島グランドでの秋の運動会により、保護者との交流が一段と進んできたところです。しかし、利用者家族アンケートによると、まだ十分とは言えないと見受けられます。

種々の機会をとらえて園の理念や方針を伝える、保育の実際の場面を紹介するなど検討し、保護者とのよりよいコミュニケーション作りに努めていくことが望まれます。

2. 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供を

現在、子どもをとりまく環境が大きく変化していく中で、保育園には地域における子育て支援の役割が一層求められています。

開設後 2 年の中で、既に育児相談の受け入れ体制を作りつつあり、散歩先の公園で、遊びに来ている親子にも話しかけるなど、積極的に地域の子育て支援ニーズの把握等に努めています。そして、本園と共催のバザーや七夕の催しに多くの人々の参加があり、地域との交流も少しずつ図られています。

地域への子育て支援サービスの提供に関しては、小型園の職員体制からは厳しい状況にありますが、隣接する飯島グランドの活用なども検討の中に加え、本園とも密接な連携を保ちつつ、地域への子育て支援サービスの提供に努めていくことが望まれます。

当機関では、障害を「障がい」と表記しています。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権への配慮

- ◇ 保育の基本方針「整えられた環境において、子どもの情緒的発達を助ける。キリスト教保育とモンテッソーリ教育によって、園児に質の高い生活支援をする。」に基づき、子どもたちは一人ひとり大切にされ、温かく見守られて園生活を送っています。
- ◇ 虐待の定義が全職員に周知されており、虐待が明白になった場合や疑わしい場合には、関係機関との連携が取れる体制になっています。
- ◇ 個人情報保護についてはマニュアルで周知され、個人情報は所定の書架で管理されています。

2、利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援

- ◇ モンテッソーリ幼児教育を柱とし、子どもの持つ自発的で創造的な関心を引き出し、自己成長を促し、子どもたちの個々の成長を大切に保育を行っています。
- ◇ 園児の送迎時における保護者との交流、連絡帳、年2回の保護者懇談会、年1回の保護者面談などを通して、保護者の意向や要望を把握することに努めています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育園の運営に豊富な経験を持つ園長のもと、キリスト教保育に基づいたモンテッソーリ教育の考え方により、優れた保育のしくみが構築され実践されています。
- ◇ 職員に対しては、職員心得が定められています。毎年度初の会議においては園長より詳細に説明され周知されています。
- ◇ 法関係、危機管理、保育関連、施設関連に分類されたマニュアルが整備されています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 本園と共同で開催する、バザー、七夕、お買い物ごっこには多くの人々が訪れ、地域との交流が図られています。また、花の日(6月)、収穫感謝祭(11月)には園児がお世話になった病院や消防署・警察署・区役所等に感謝の気持ちを込めた品を持って、訪問しています。
- ◇ 隣接する飯島グラウンドにおいては、栄区内の6つの保育園が共同でサツマイモ等の栽培を行い、園児どうしの交流を図っています。
- ◇ 育児相談は、特に日を決めていませんが、電話及び面談によって相談を受けています。
- ◇ 今後は、園として、地域の関係機関・団体との交流・提携をより深めることなどで、地域の子育て支援ニーズの把握に努め、子育て支援サービスの提供について更に検討していくことが望まれます。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 保育理念や保育の基本方針が明確に定められ、職員会議などを通して周知・理解され、実践されています。分園長の自由な話し合える園づくりが、運営上の透明性に結びついています。
- ◇ 保護者へは、毎月の園だよりと年2回の保護者懇談会を通して園の取り組みや行事の様子等が伝えられています。また、大船ルーテル教会発行の「月報」の中で、保育園の状況を広く伝えています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 職員の資質向上については特に力を入れている部分であり、職員は向上心をもって真摯に学び、自己研鑽に努めています。
- ◇ 採用後、保育士は大学等で2年間のモンテッソーリ教員養成コースを受講し、モンテッソーリ教育の理論と実践を学び、実際の保育の場において更に研鑽を重ねています。
- ◇ 園内研修としての、ケーススタディ会議、クラス別会議などを通して自らの保育技術の向上を図っています。
- ◇ 職員は年末に自己評価を行い、園長面接を通して振り返りを行いながら、次年度の目標を確認しています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。



「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。







3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある


の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 当園は、キリスト教精神を基に、モンテッソーリ幼児教育を柱とした独自の保育をすすめ、0歳から就学前までの一貫保育を基本理念としています。 「整えられた環境において、子どもの情緒的発達を助け、園児に質の高い生活支援をするとともに、地域に根ざす保育園として保護者の就労支援」を基本方針にあげています。 当園の保育は、従来の保育士主導の一斉保育とは異なり、主として園児の個別指導の形をとり、幼児の個々の成長を考えています。 職員は、モンテッソーリ教育やキリスト教の保育について大学等のモンテッソーリ教員養成学校やキリスト教の専門誌により学んでいます。さらに、基本理念や基本方針について、職員心得や手引き書を読み、職員研修での相互確認によって理解を深めています。 保育計画は、地域の自然や近隣の企業施設などを活用したものとなっており、保護者の就労状況などにも考慮して、クラス担当、分園長など全職員が関わって作成しています。 保育士は子どもをよく観察し、一人ひとりの意見・意思を汲み取り、個別に記録しています。その記録から子どもの自主性や主体性を育て、発揮出来るように指導計画の作成・見直しをしています。 モンテッソーリ教具に触れた日付と取り組みの様子や保育士との関わり方などの個別記録（モンテッソーリ記録）
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 入園前の育成歴や家庭での状況は、事前に提出される書類で園長が把握しています。入園が決まると分園長が保護者との面接で確認し、把握した情報は児童票に記録しています。 子どもの生活の連続性の視点から、保護者へは乳児だけでなく幼児についても、園での様子を連絡ノートで伝えています。連絡ノートは、保護者からも家庭での様子が伝えられ、良く連携ができています。 指導計画は、モンテッソーリ記録に基づき、子どもの発達や状況に応じて、担当保育士と分園長等、複数の職員が参画して、作成・評価・見直しを行っています。また、個人面談や連絡ノートからの情報の他に、保育士は毎日保護者に声を掛けるように努め、保護者の意向を読み取り、指導計画に反映しています。

<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沐浴・シャワー等の設備管理も十分に行われ、屋内、設備ともに清潔に保たれています。 ・ 乳児クラスはランチルームで、幼児クラスは 2 つの保育室を使い分けて、食べる・寝るなどの機能別の空間を確保しています。 ・ 3歳から5歳は異年齢児保育（縦割りクラス）を取り入れています。屋内は開放的な造りになっているため、自然と年齢の違う子どもたちが交流できる場となっています。 ・ 保育室は南側に大きな窓があり、陽光と新鮮な空気が十分取り入れられます。寒いときには床暖房を入れて、施設内の温・湿度の管理を行っています。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モンテッソーリ教育のプログラムに基づき、一人ひとりの子どもの発達状況が詳しく記録されています。個別の目標・計画は、その記録に基づき、柔軟に対応しています。 ・ 指導計画を文書化し、職員間で共有しています。必要な部分は保護者にも説明し、園と家庭での生活の継続性を保っています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に配慮を要する子どもは、現在該当者はいませんが、個別に援助が必要と思われるケースについては、職員会議で情報を共有し、全職員が関わって、一人ひとりに目が届くようにしています。 ・ 障がいのある子どもの保育については、本園が開催する勉強会に参加するなど、全職員で学習し、話し合える体制ができています。 ・ アレルギー疾患のある子どもについては、除去食や代替食を提供していますが、園で対応出来ない場合には家庭から持参してもらうなどの保護者との連携ができています。 ・ 外国人講師による国際（英語）の時間があり、講師との触れ合いの中で、子どもたちが自然に文化や生活習慣の違いを理解し、尊重しあえるように配慮しています。
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者委員に直接苦情を申し立てることができることを、保護者に配布する「手引書」に明記して紹介し、権利擁護機関や第三者委員の連絡先を掲示しています。 ・ 保護者に対して、懇談会等で要望や苦情を聞くだけでなく、連絡帳の記載からも要望等を汲み取っています。更に、保育士から積極的に声をかけるなどの工夫をしています。 ・ 要望や苦情は職員会議等で取り上げ、改善策について話し合い、記録が残されています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢や発達に応じて、モンテッソーリ教具を整えるなど、環境構成に配慮しています。 ・ 異年齢児保育（縦割りクラス）のため、年少児は年長児を見習い、年長児は年少児をいたわるなど、友だち関係やルールを守る等の社会性が身につけられるようになっています。 ・ 子どもが自発的に表現することができるよう、色紙やはさみ、色鉛筆などの素材や道具を自由に選んで使えるように準備しています。 ・ 隣接する栄区所有の飯島グランド内の菜園では、区内6つの保育園が共同で、サツマイモやタマネギの栽培を行っています。共同菜園を通して、食育や、他園の子どもたちとの交流に活かしています。 ・ 散歩のコースは子どもの状況や発達段階に応じて決めています。公園の遊具を活用したり、安全な場所では全速力で走るなど、運動能力を高めることを意識した遊びの環境づくりをしています。 ・ 園外活動では、近くの“いたち川”（栄区住民が主体となって自然保護に取り組み、整備をしています）の遊歩道や、公園への散歩で地域の人と挨拶をしたり、自然に触れる機会を積極的に取り入れています。また、地元企業が地域の人向けに作品展示等の場所を提供している施設もあり、散歩コースに組み入れて、顔なじみの職員や来場者の人達との交流ができています。 ・ 子どもの既往歴や健康状態に合わせ、具合の悪い時には、外遊びや散歩の参加を控えて室内遊びにするなどの配慮がされています。 ・ けんかやもめごと等については、危険の無いよう配慮しながら、子どもどうしで解決できるよう援助しています。観察では子どもどうし話し合い、仲直りする場面も見受けられました。

- 1 保育内容[生活]



- ・ 食育に力を入れ、栄養士が絵などを使って三大栄養素の説明をしたり、子どもが食材に触れ、実際に調理をする機会を設けるなど、年間を通した食育計画を立て実行しています。
- ・ 年齢に合わせ、子どもが自分から食べようとする意欲や行動を大切にしながら、咀嚼の弱い子には噛む力を付けるよう工夫したり、励ましや褒めるなどの適切な言葉かけで援助をしています。
- ・ 給食だよりに献立のポイントを明記して、情報提供を行い、保育参観時に保護者に給食の味見をしてもらい、栄養・味付け・食べ方(噛み方)等、園で配慮している事をしらせ、保護者に食事に対する関心を促しています。
- ・ 栄養士と調理員は、日常的に子どもたちと会話をし、食事の様子を見て子どもたちの好き嫌いを把握し、盛り付けを工夫し、個別に刻み食をとりいれるなど細やかに対応しています。
- ・ 子どもたちの食欲を促すために、季節感のある献立や、お誕生会のメニューにキャラクターを取り入れた盛りつけをするなどの工夫をしています。
- ・ 安心して心地よい眠りにつけるよう、食事・遊びと午睡・休息の場を分けています。眠れない子どもには午睡を強要せず、静かに過ごさせるなど柔軟な対応をしています。
- ・ おむつは布のものを使用し、約1時間毎に濡れていないかチェックして、一人ひとりの排泄のリズムをとらえています。それぞれの発達状態に合わせてトイレトレーニングを行うなど、個人差を尊重しています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、一人ひとりの健康状態を把握し、職員間で共有し、必要に応じて、その日の様子をお迎えの時に保護者に伝えています。
- ・ 健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝え、家庭との連携を密にし、対応について相談しています。
- ・ 感染症への対応については、登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応を保護者へ配布の「手引書」に詳しく明記し、職員だけでなく保護者にも周知しています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・ マニュアルに基づき清掃等が行われています。
- ・ マニュアルは、本園と共通となっており、職員参加により定期的に見直しています。
- ・ 内容を全職員が共有するため、定期的(採用時に1回、採用後は最低年1回)に研修を実施しています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・ 事故や災害に備え、通報や連絡体制の予行演習、地域の避難場所への誘導などの訓練を実施しています。
- ・ 子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に状況を報告し、職員会議で再発防止策の検討が行われ改善策が実行されています。
- ・ 民間の警備会社と防犯システム契約をかわし、不審者等に対する緊急通報体制が確立されています。また、近隣の会社等との間で、緊急時に応援を要請出来る関係が来ています。不審者の情報が本園や関係機関、近隣住民等から得られるネットワークができています。

- 3 人権の尊重





- ・ 子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう職員間で相互に配慮し、子どもをよく観察し、気持ちや発言を受け入れ、せかしたり強制したりせず、おだやかに分かりやすい言葉で話をしています。
- ・ 着替えの際に身体の様子に気をつけたり、その他気になる兆候が無いか気を配り、家庭支援の必要な場合には、個別に話し合う機会を設け、保護者の相談も受けるなどの援助をして、虐待の予防に配慮しています。
- ・ 個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくり、守秘義務の意義や目的についても全職員（ボランティア・実習生含む）に周知しています。
- ・ 開放的な造りの中に、カーペットやソファを置き、子どもがくつろげる空間を用意していますが、時には友だちや保育士の視線を意識せずに過ごせる場所を工夫する事が望まれます。
- ・ 日常の保育では、整列・グループ分けなどは名前順で行い、男女の区別はしていません。また、無意識に性差による固定観念で保育をしていないか、職員相互に確認しあう仕組みがあります。

- 4 保護者との交流・連携






- ・ 必要な時には、保育士は交代で早出遅出のシフトを組み、子どもの送迎時に担任が直接保護者と話ができるように配慮し、情報交換が行えるようにしています。
- ・ 相談を受けた職員が適切に対応し、助言が受けられる体制があり、相談は記録し、継続的なフォローができています。
- ・ 本園と共通の「月のお知らせ」と、分園発行の「月の保育」、大船ルーテル教会発行の「月報」を配付しています。また、保育室内に子どもたちの様子を知らせる情報を掲示しています。
- ・ 保育の基本方針について、保護者に対しては「手引書」を配布し保護者懇談会や入園説明会などで説明し、さらに園だよりなどで理解されるよう努めています。
- ・ 年に1回、個人面談と保育参観を行っており、それ以外にも希望があれば保育参観は随時受け付けています。保育参観、懇談会等に出席できなかった保護者へは直接保育士から内容を伝えています。今後は、保護者が保育に参加する機会を設けることができれば、さらに園への理解や連携が深まることが期待できます。
- ・ 本園と合同のPTA(保護者と職員による組織)とはコミュニケーションをとっていますが、いずれは分園独自のPTAとし、保護者との連携をさらに深めることが望まれます。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子育て支援ニーズを把握して、サービスを提供することについては、開設2年を経て、徐々に体制を整えている状況です。 ・ 現在、散歩先の公園で、遊びに来ている親子連れにも話しかけをするなど、地域住民との交流の中で、施設に対する要望を把握しています。 ・ 特に、相談日は設けませんが育児相談を行っています。 ・ 今後は、職員体制も考慮しつつ本園と連携しながら、地域における子育て支援サービスについて検討の上、実践していくことが望まれます。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の専門性を活かした相談機能として、「育児相談」の体制を整え、電話による問い合わせや相談を受けています。 ・ 地域に対する情報提供については、限られた提供範囲になりますが、大船ルーテル教会発行の「月報」の記事の中で行われています。今後の課題として、園からのお知らせを外へ掲示するなどの地域への情報提供について、検討が望まれます。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけとしては、開設2年を経て、徐々に整えつつあります。 ・保育園に対する理解促進のための取組みとしては、本園と共同開催のバザー、七夕、お買い物ごっこなどがあり、地域住民との交流が進んでいます。 ・また、6月の花の日（一年で一番花の豊富なこの季節に、美しい花を通して、感謝を表すキリスト教の行事）や11月の収穫感謝祭に、お世話になっている病院、消防署、警察署などへの日頃の感謝を示す訪問は、園児にとっても視野を広げ、社会性を育てる良い機会となっています。 ・利用している地域の文化施設としては、地元企業が運営するギャラリーがあり、散歩コースにも組み込んでいます。ここでは、職員や来場者とも交流ができています。 ・隣接する飯島グランド内の菜園において、区内6つの保育園と共同で行うサツマイモや玉ねぎの栽培は、園児どうしの交流になっています。 ・今後は、地域の自治会・町内会やボランティアグループなどとの交流の中で、地域の行事や活動にも参加できるよう検討が望まれます。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の利用者が関心のある事項については、栄区の広報誌、及び市のホームページ等により、提供しています。 ・利用希望者の問い合わせには常時対応できるように体制を整えています。また、保育に支障をきたさない範囲で、見学の希望にも対応しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・実習生の受け入れについてのマニュアルがあり、受け入れる体制も整っています。職員体制が小さいにもかかわらず、実績としては、前年に2名の実習生を受け入れました。 ・実習生については、実習終了後に職員との意見交換の場を設けており、実習生の気付きや意見を聞いて園の運営に反映させるしくみがあります。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材の育成については特に力を注いでいます。園の理念や方針に相応しい職員を採用し、採用後は大学等にて行われている2年間のモンテッソーリ教員養成コースへの受講を奨励し、支援しています。更に園内における各会議・研修を通して、人材の育成に努めています。 ・ 職員の研修体制は確立されており、外部の研修、研究発表会へも積極的に参加し、また、海外研修への参加も行っています。 ・ 職員は個々に資質向上に向けた目標を定め自己研鑽に励んでおり、年末の園長面接を通して評価を受け確実なものにしています。 ・ 一貫した計画の下に研修が行われていますが、研修計画が明文化されていません。また、外部の研修・研究発表会における研修の成果を広く活用する状況には至っていません。今後、研修計画の文書化、研修成果の更なる活用などについて検討が望まれます。 ・ 非常勤職員には、業務マニュアルによる勉強会、職員会議への出席等を通して、指導を行っています。また、常勤職員の日常の実務を通しての教育・指導（OJT教育）により資質向上を図っています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員はモンテッソーリ教員養成研修を修了し、実践において保育技術の向上に努めています。そして、毎月開催ケーススタディ会議における意見交換・討議や、分園会議などを通して、更なる技術の向上を図っています。 ・ モンテッソーリ勉強会や聖話研修においては、外部より講師を招いて指導を受けています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員のモチベーションの維持向上に関して、経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として職員心得に明文化されています。 ・ 職員は、本人の適性・経験・能力に応じた役割を与えられ、やりがいや満足度を高めています。 ・ 園長は、年末に職員全員から提出される振り返りのレポート及びアンケートを丁寧に読み込んで一人ひとりと面接を行い、職員の満足度・要望などを把握しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者として守るべき、法・規範・倫理等は職員心得に明文化されており、会議等において周知徹底されています。 ・外部に対する経営・運営等の情報の公開としては、配布が限られてはいますが、大船ルーテル教会発行の「月報」を利用して行われています。 ・ゴミ減量化については、ゴミの分別収集、布オムツの使用など、積極的に取り組んでいます。また、省エネルギーについては、床暖房の採用など、環境に配慮した取り組みを行っていますが、まだ、環境配慮の考え方が、方針や目標の中に明記される段階には至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、理念や基本方針等について職員心得に明記し、職員に周知徹底を図っており、職員はその実践に努めています。 ・また、園長は、重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を求めたり、説明する機会をもっています。 ・分園長は、スーパーバイザーとしての役割を果たせるよう育成されており、会議などを通して職員の業務状況を把握するしくみとなっています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は事業運営に影響のある情報を収集・分析して、外部環境の変化等に対応して、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っています。 ・これらは職員会議等を通して、職員に周知され、園全体の取り組みに反映されています。 ・なお、園の運営に関して、中長期的な計画や目標は、まだ、明文化された状態には至っていません。

利用者家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2006年9月4日～10月10日
- 2、実施方法 事業者から直接利用者家族に配付(手渡し) 同封の返送用封筒にて評価機関宛匿名で返送。
- 3、回収率 42.9% (配布総数28枚、回収数12枚)
- 4、所属クラス 0歳児...2人、1歳児...1人、2歳児...3人、3歳児...4人、4歳児...2人、5歳児...0人
ただし同一家族で複数名が在籍の場合には、下の児童のクラスについて回答。

設問ごとの概要

【問1】 保育園の保育目標や保育方針について

90%の保護者が知っています。更に、“知っている”と回答した保護者の91%が「目標や方針に賛同できる」と回答しています。 数値90%は、「知っている」「まあ知っている」を合わせたもの。

【問2】 入園する時の状況について

「見学受け入れ」の項目で「その他」とする回答が50%と高くなっている理由は平成16年12月に開設したばかりであることが考えられます。

【問3】 年間の計画について

100%の高い満足度が得られています。

数値100%は、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせたもの。以下同様。

【問4】 日常の保育内容について

遊び、生活、共に満足されています。特に「園の遊びについて」と「園外活動について」「体調への気配りについて」は100%の満足度です。

【問5】 快適さや安全対策について

「落ち着いて過ごせる雰囲気」の項目に高い満足度があるものの、「不審者侵入に対する備え」と「衛生管理や感染症対策」の項目の満足度が75%にとどまっています。

【問6】 保護者との連携・交流について

ほとんどの項目に満足が得られていますが、「送り迎えの際の説明について」の満足度が67%、「相談事への対応について」の満足度が75%と低めになっています。

【問7】 職員の対応について

「アレルギーや障がいのあるお子さんへの配慮」に67%と低い数字の理由は、質問に該当しない方が「その他」に、回答をしたことによります。「不満や要望を気軽に言えるか」、「不満や要望への対応について」は約58%と、低い満足度にとどまっています。

【問8】 総合的な評価について

92%の保護者が満足しています。

結果の特徴

- ◇ (配布総数28枚に対して)回収率が大変低い値だったため、特徴が出にくい結果となりましたが、保護者とのコミュニケーションについては、今後、検討されることが望まれます。

利用者家族アンケート集計結果

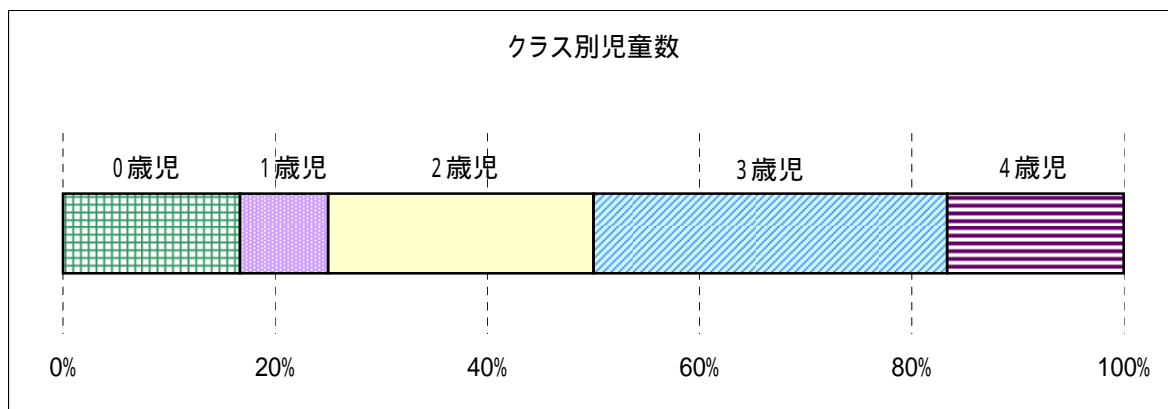
実施期間： 2006年 9月4日 ~ 10月10日

回収率 42.9% (回収数 12枚 / 配付総数 28枚)

【属性】

クラス別児童数 複数在籍の場合は、下の子どもで記入

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	無回答	合計
2	1	3	4	2	0	0	12



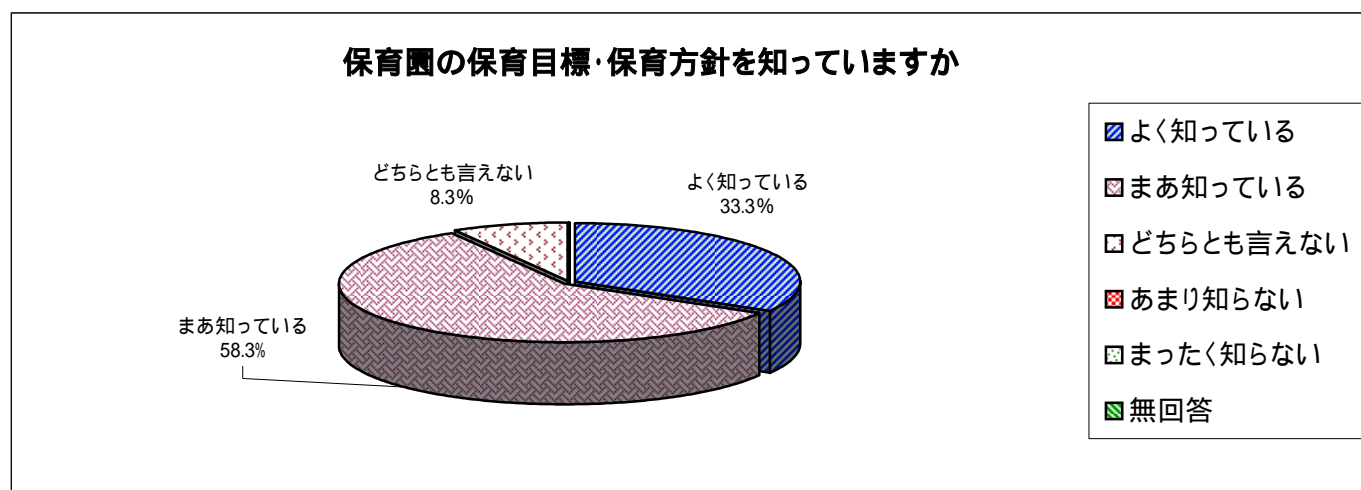
(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	33.3	58.3	8.3	0.0	0.0	0.0	100

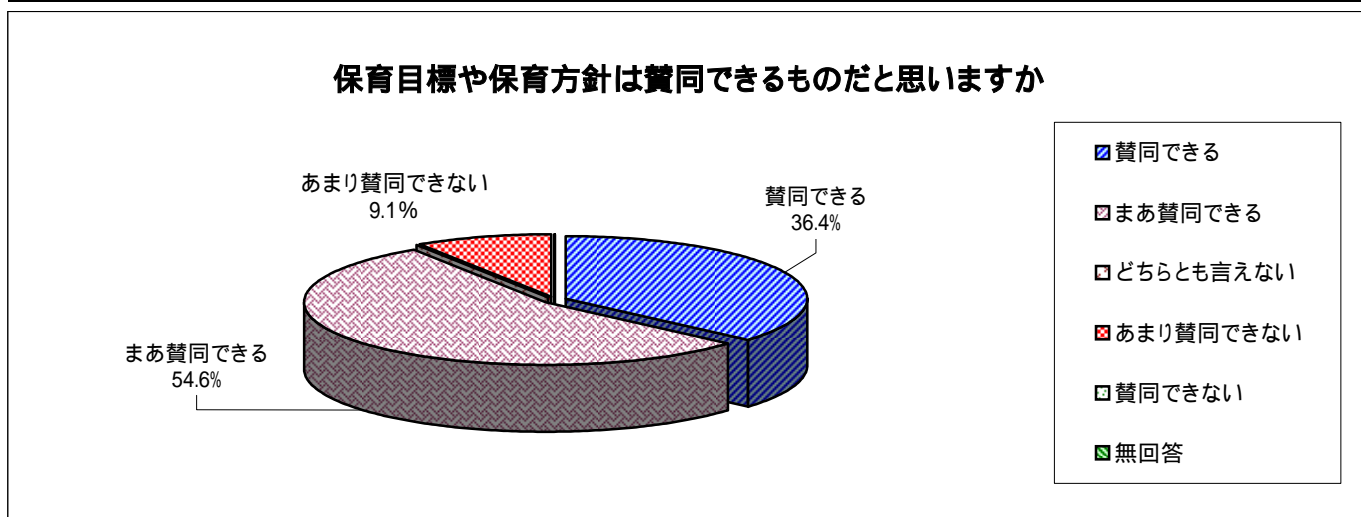


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	36.4	54.6	0.0	9.1	0.0	0.0	100



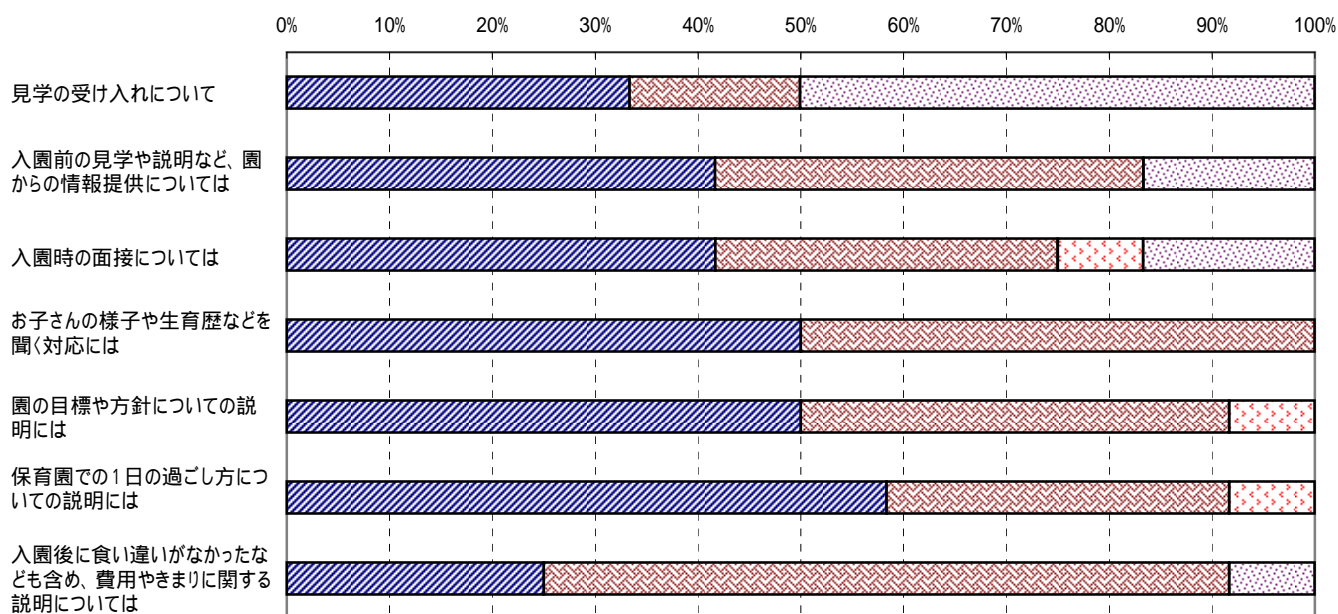
保育園のサービス内容について 問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	33.3	16.6	0.0	0.0	50.0	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	41.7	41.7	0.0	0.0	16.7	0.0	100
入園時の面接については	41.7	33.3	8.3	0.0	16.7	0.0	100
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	50.0	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0	100
入園後に食い違いがなかったなども含め、費用やきまりに関する説明については	25.0	66.7	0.0	0.0	8.3	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



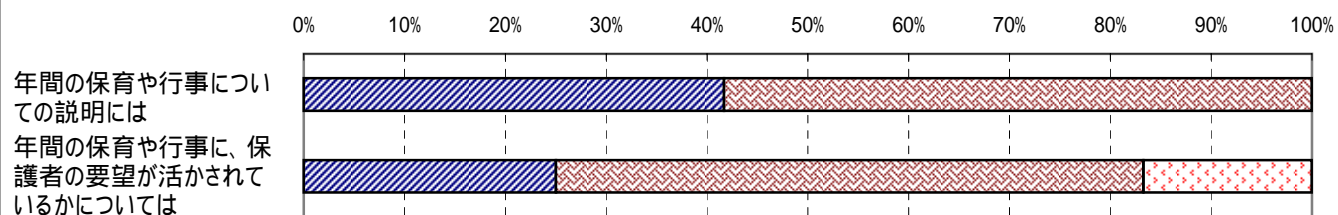
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	41.7	58.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	25.0	58.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100

年間の計画について

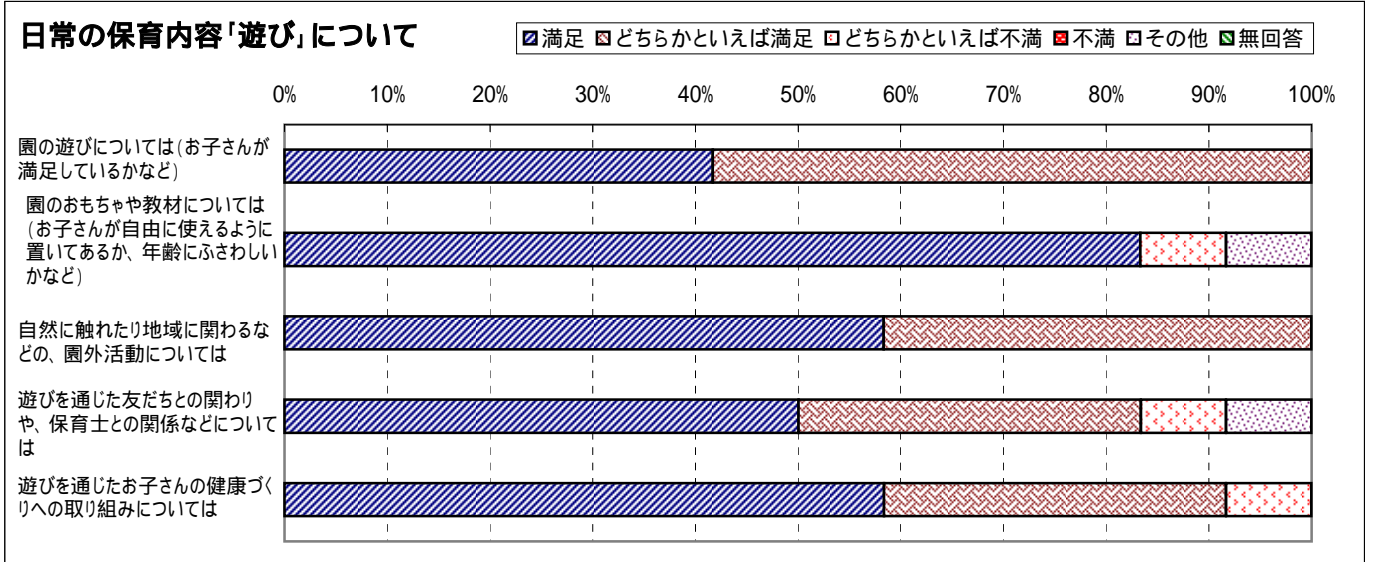
■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問4 日常の保育内容について

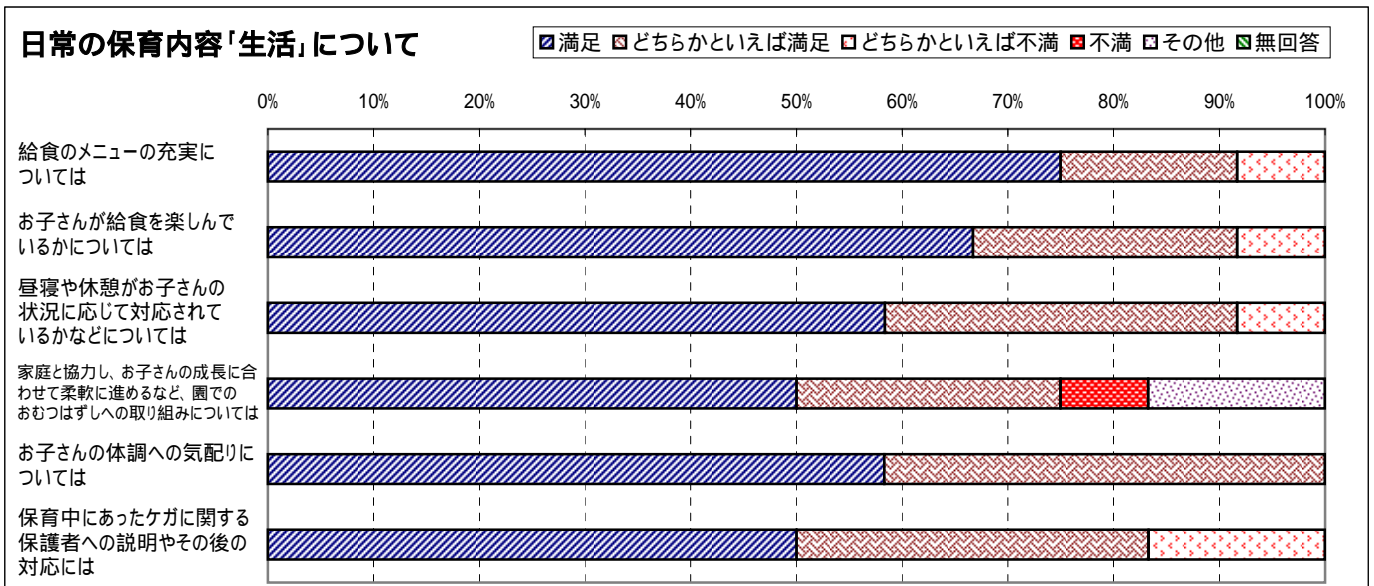
(%)

「遊び」について							計
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	
園の遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	41.7	58.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	83.3	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	58.3	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	50.0	33.3	8.3	0.0	8.3	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0	100



(%)

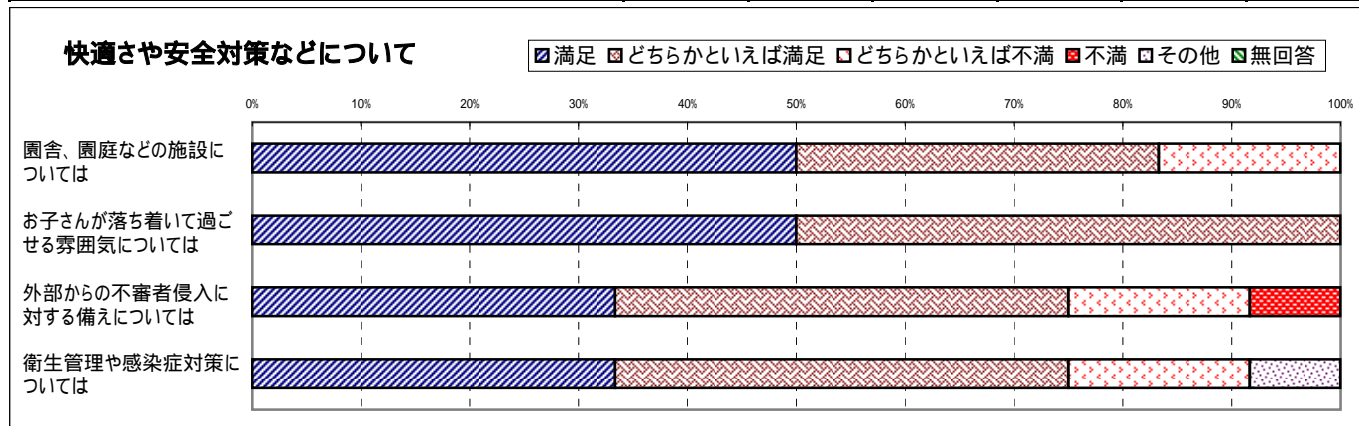
「生活」について							計
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	
給食のメニューの充実については	75.0	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	66.7	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	58.4	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	50.0	25.0	0.0	8.3	16.7	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	58.3	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100



問5 快適さや安全対策などについて

(%)

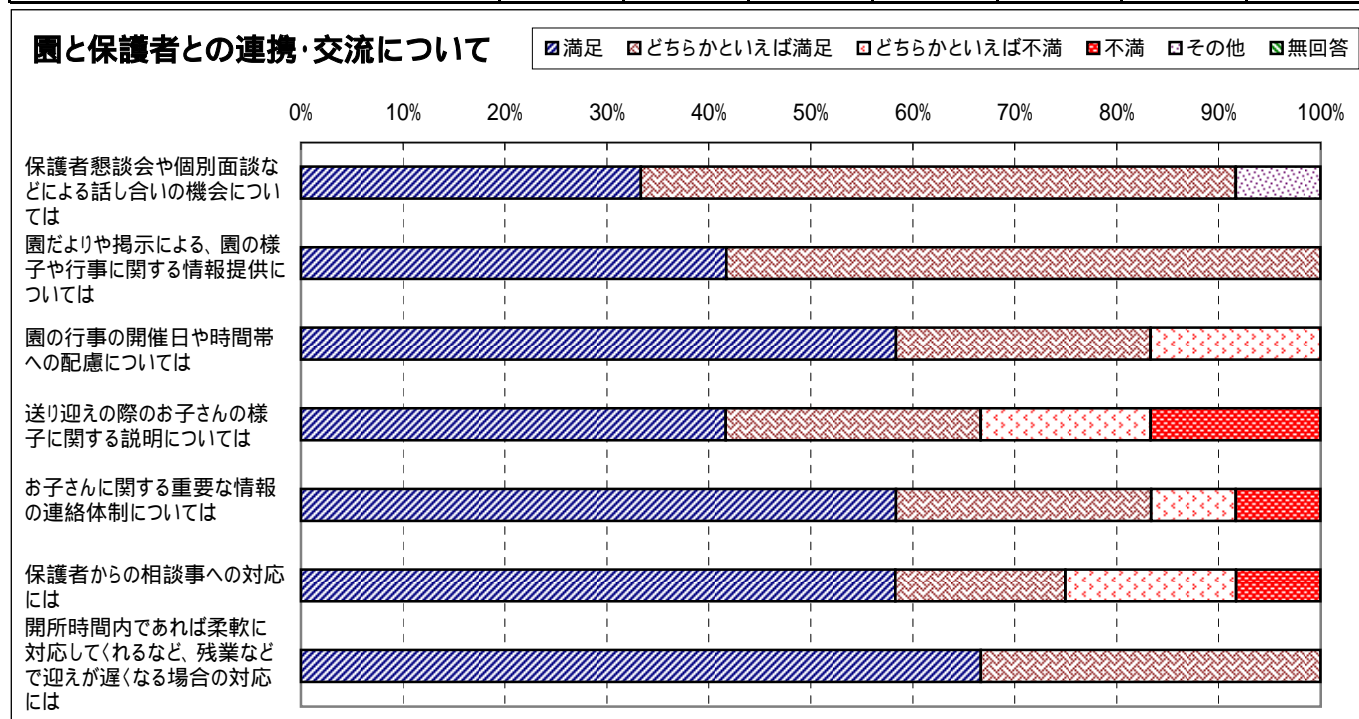
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園舎、園庭などの施設については	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	33.3	41.7	16.7	8.3	0.0	0.0	100
衛生管理や感染症対策については	33.3	41.7	16.7	0.0	8.3	0.0	100



問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

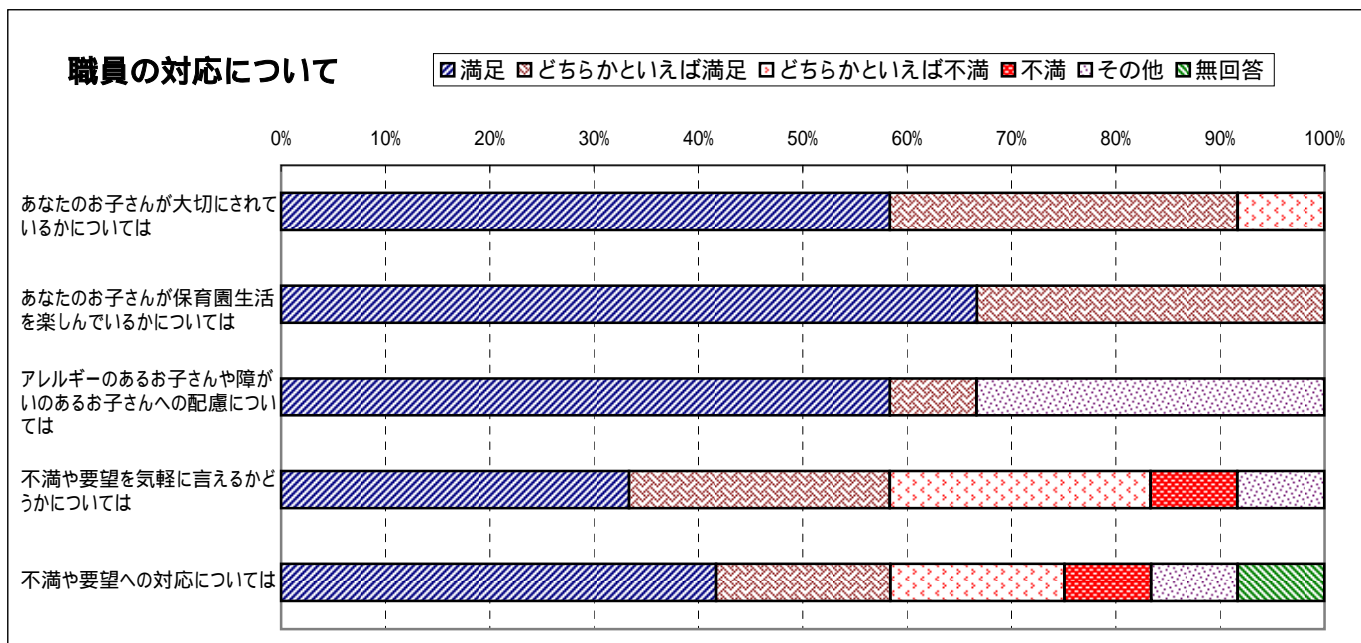
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	33.3	58.3	0.0	0.0	8.3	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	41.7	58.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	58.3	25.0	16.7	0.0	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	41.7	25.0	16.7	16.7	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	58.3	25.0	8.3	8.3	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	58.3	16.7	16.7	8.3	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100



問7 職員の対応について

(%)

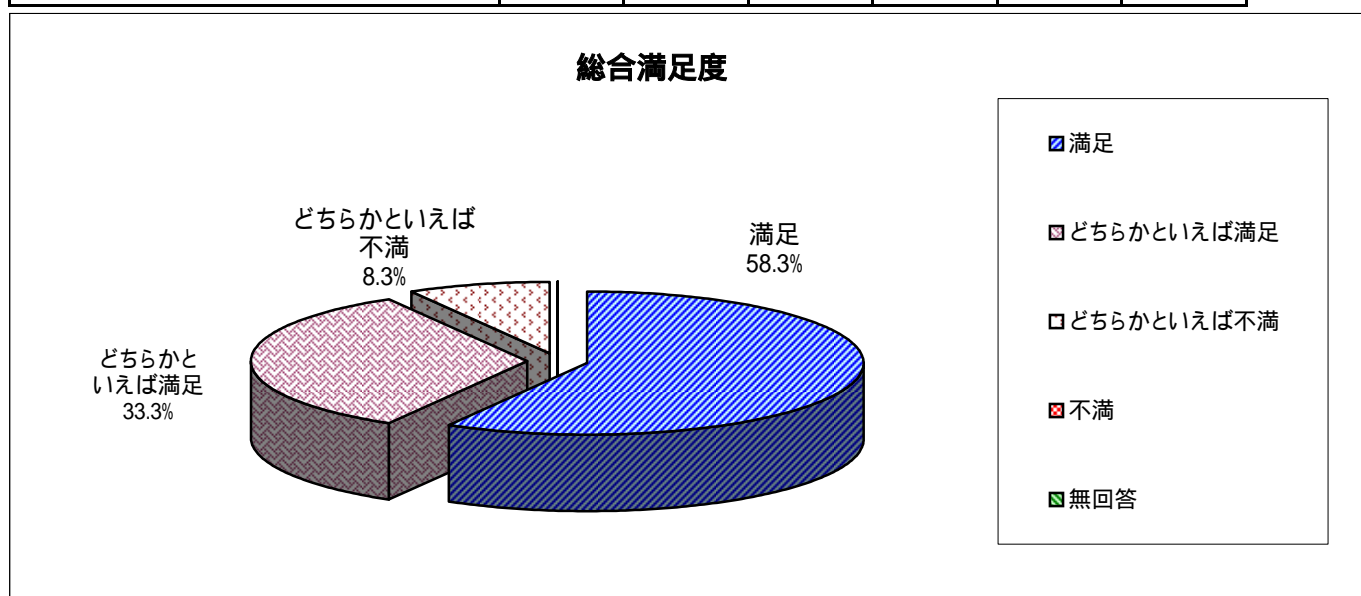
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障がいのあるお子さんへの配慮については	58.3	8.3	0.0	0.0	33.3	0.0	100
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	33.3	25.0	25.0	8.3	8.3	0.0	100
不満や要望への対応については	41.7	16.7	16.7	8.3	8.3	8.3	100



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	100



利用者本人調査 分析

観察調査 2006年11月30日(木) 8:30~18:00、12月6日(水) 8:20~17:00

観察中、5歳以上の園児に適宜聞き取りを行いました。

当園は本園同様キリスト教に基づいた保育園であるため、朝夕の礼拝、食事の時のお祈りは、幼いながらもしっかりとマナーが身に付いています。

モンテッソーリ教育を取り入れ、教具を使ったプログラムを行い、これは、「お仕事」と呼ばれています。そのほか、週のプログラムには国際（英語）の時間、絵画の時間があります。また、希望者は近隣のスイミングスクールへ園から送迎をして通っています。

1. 遊びについて

モンテッソーリの時間

子ども達は登園すると、モンテッソーリの教材の棚から自分の好きな物を自由に取り出し、好きな席に座って「お仕事」を始めます。

人数が少ない事もあり、一人ひとりが十分に取り組んでいる様子でした。保育士も全員について日々の教具に触れる様子を把握し、好みのものをさらに発展させる示唆や、新しい事へ取り組みを投げかけるなどきめ細やかに支援し、記録も丁寧に行っています。

礼拝・サークル

0歳と1歳の月齢の小さい子は、サークル（乳児クラスの礼拝に代わるプログラム）で保育士と一緒に手遊びと歌を歌います。先生2人が歌うのをよく見て、よく聞いています。

礼拝は、1歳で月齢の大きい子から5歳までが一緒に部屋で行います。ローソクに火をともし、ピアノ演奏で静かになった頃、お話、お祈り、神様の言葉と続き、ローソクの火を消して終わります。その後出席をとり、みんなで手遊び歌を歌い、今日のスケジュールを説明して終わります。

外遊び

ほとんど毎日お散歩をしています。

近くに地元企業が地域の人達に作品等を展示出来るよう開放しているギャラリーがあり、0歳から2歳の子どもが散歩でそこまで行くと、職員の人達とも顔馴染みで、歓待してくれます。室内で、冬の冷たい風もよけられ、綺麗で安全なのでゆっくりと過ごしています。行き帰りは、4人乗りのバギーに乗ったり、自分で歩ける子どもは、時々バギーを押すのを手伝ったりしながら、保育士やお友だちと手を繋いで歩いています。

3歳から5歳の子どもたちは、近くにある笠間町公園や西飯島第二公園まで歩き、滑り台、シーソー、砂場、ブランコ、かけっこなどで遊びます。行き帰りは“いたち川”沿いの遊歩道で、全速力でかけっこをしたり、白鷺や花や木の実を見つけ、発見の元気な声を上げたりしていました。

危険な場面や、車が来ると先生が事前に注意の声掛けをしています。

園と隣接する飯島グラウンドも活用し、保育士と一緒に一生懸命遊んでいます。

国際（英語）の時間

外国人講師が来ると子ども達が一齐に喜びの声で迎えます。最初にアルファベットでそれぞれの名前が書かれたメダルを胸に付け、先生に呼ばれると返事をします。先生はゆっくりと英語で話したり絵本を読み聞かせたり、判らない子にはたまに日本語を使い、絵をさして Dog、Cat など、子どもに繰り返させ、発音練習をしています。最後には「バイバイ」「シーユー」といって、一人ひとりハグして終わります。照れる子や握手の子もいましたが、みんな先生が大好きな様子です。

降誕劇の練習

クリスマス会の準備は大分完成に近づき、子どもたちも楽しみながら練習をし、保育士はできばえを一人ひとり褒め、子どもに自信を持たせます。一部ふざけ過ぎてしまった子どもに対して

は、終了後に他の子どもからは少し離れたところで、「ふざけるのは良くないよね」と手を握って話して聞かせると、子どもも照れたようにしながら頷いて聞いています。

2. 食事について

乳児はランチルームで、3歳から5歳は大きな部屋に集まってみんなで食事をします。

5歳児は配膳を手伝い、調理師に質問をしたりしながら準備をします。全員が席に着くとお祈りをして、楽しそうにお喋りしながら食事をし、全部食べるとおかわりが出来ます。3歳から5歳の子どもたちは、お箸を上手に使って自分で食べています。

「嫌いな物はある？」と聞くと、ほとんどの子どもは「何でも食べる」とのことです。嫌いな物も、「小さくしたり、好きな物と一緒に食べる」「先に減らして、少しは頑張って食べる」そうです。

食後、幼児は自分で歯磨きをして、トイレに行き、お昼寝の準備をします。食事に時間のかかる子どもは、1つのテーブルに集まり、最後まで自分のペースで食べます。どうしても食べられない子どもには、自分で意思表示をさせるようにしています。

乳児も、配膳やお祈りの時にしっかりと待つ事ができ、楽しそうに良く食べます。

3. 排泄について

0歳児は、1時間おきに布おむつを取り替え、様子を排便表に記入しています。1歳になると、決まった時間に声をかけて自分でトイレへ行かせるようにします。一人ひとりの排便の状況は日課表に記入します。

2歳児は保育士に声をかけられて、ほとんど1人でトイレを済ませパンツをはいていましたが、おしりを拭かなかったり、手を洗わずに出てくる子どもは、保育士に促され戻って手を洗います。

「お漏らししたときは、どうするの？」と子どもに聞くと、「着替える」という答えでした。

4. 清潔・健康について

床暖房が取り入れられており、子どもたちは室内では裸足で過ごしています。部屋は保育士が当番制で掃除をしています。

園外保育から帰ると幼児は自分で汚れた洋服を着替え、乳児は保育士に洋服を交換してもらいます。汚れたものは保育士が一人ひとりビニールに入れて、各自のかごへ入れています。

5. いやな思いへの対応や権利を守ることにについて

理由がなく泣いているような子どもは見受けられませんでした。全体に穏やかでけんかは少ないように見えたが、けんかがあると、保育士は事情を聞き、どうしたらよいか子どもに考えさせ、仲直りをするように援助します。

子ども達に聞くと、「いやな事やけんかが起きると先生に言いに行く」、「先生は話を聞いて、悪い子は怒ってくれる」そうですが、「話し合っって仲直りする」と言う子どももいました。

6. 職員について

言葉遣いは、全体的に丁寧で穏やかです。子ども達が大騒ぎをしているときには、大きな声で叱る事もありますが、「子どもたちが興奮して収まらないときには、大きな声を出す事も必要と考えている」と保育士から聞きました。どの保育士も、一人ひとりの子どものことを良く理解している様子でした。

まとめ

子どもたちは、のびのびと明るく、「遊び」も「お仕事」にも集中して一生懸命に感じました。

保育士は、チームワークが良く、少ない人数で子ども一人ひとりに対応して、手際よく保育に取り組み、本園との違いを活かし自分たちの保育を作り上げようとする意気込みを感じました。

子どもと保育士の関係は、保育士に甘えて何かをしてもらおうという姿勢ではなく、子どもなりに自信を持っているいろいろな事に取り組み、保育士は困ったときに頼りになる存在としてとらえている様に感じました。

事業者意見

第三者評価受審は、当初から法人下の全保育園、同一年度内受審によって、各保育園の評価が判ると判断していた為、4園を大船ルーテル保育園(本園)・分園の前半、とつかルーテル保育園・つづきルーテル保育園の後半、と分割して同じ評価機関に依頼することに決めさせて頂きました。

評価の方向性が、「よこはまの保育」を根底に形成されている中で、当法人は民間の独自色の強い保育園であり、評価者を悩ませたのではないかと思いましたが、その為にわざわざ学ばれた様子を拝見して評価者の方々の真摯な取り組みには感謝しています。

同時に、第三者評価機関の眼からの評価と保護者の貴重な御意見を頂き、改善すべきものは改善し、今後の保育の向上と、子どもの幸せの為に、引き続き尽力致す所存であります。

具体的には、次の如くであります。

大船ルーテル保育園

1. 施設の安全管理については、現行の発想の転換を行い、現方式を全面的に検討の上改めるように致します。
2. 保護者の意見を汲み上げる場や手段等を用意し、保護者の御意見を保育の中に反映する様に努力いたします。
3. 地域支援機能については、一部のもののみでなく、園内にもその為のプロジェクトを立ち上げる方向で検討致します。
4. 評価報告書を再学習の為の資料として活用させていただき、将来の保育に益するように努めます。

大船ルーテル保育園分園

1. 園内の延長保育時の換気に配慮致します。
2. 大船ルーテル保育園の2・3・4と同様であります。